

京都国立近代美術館 友の会会報

2005
SPRING
第2号



ロバート・ラウシェンバーグ&スーザン・ウェイル 無題(スー) 1950年頃
スーザン・ウェイル氏蔵

展覧会の

見どころ

痕跡——戦後美術における 身体と思考展

11月9日[火]—12月19日[日]

痕跡 — 戦後美術における身体と思考

本展覧会では1950年前後から1970年代後半のおよそ30年間にわたる日本とアメリカ、そしてヨーロッパの現代美術の動向を概観する。これまで現代美術に焦点をあてた展覧会は多くが運動や動向を概観し、相互の影響関係を検証するかたちで構成されてきた。しかしこの展覧会では運動や動向、あるいは影響といった概念をひとまず白紙に戻し、作家の国籍、世代、表現の手法を横断するかたちで戦後美術を検討してみたいと考える。

その際に手がかりになるのは「痕跡」という概念である。「痕跡」とは一言で言うならば、何かの結果としてもたらされたイメージである。いかなる絵画も画家の筆の痕跡であり、いかなる彫刻も彫刻家の手わざの痕跡であることはいままでもない。しかし従来の絵画や彫刻は、静物画や肖像彫刻に明らかとなっており、作家の創造の痕跡であると同時に何かの似姿であることをその存在目的としていた。抽象的な表現においても作品は痕跡であること以前に何かを象ることによってその意味を獲得したと考えられよう。

これに対して、第二次大戦後の美術においてなにごとかの結果であること自体を誇示し、作品の目的とした多くの作品が登場する。例を挙げよう。1950年頃、日本の具体美術協会の代表的な作家である嶋本昭三は粗悪なカンヴァスの表面に穴をあけ、1953年、アメリカのネオ・ダダを代表するロバート・ラウシェンバーグは何枚もの紙をつなぎあわせて自動車のタイヤの跡を記録した。あるいはポップ・アートの第一人者、アンディ・ウォーホルは78年にカンヴァスの上に残された放尿の跡を《ピス・ペインティング（小便絵画）》として発表した。世代においても表現においても、これまで全く無関係とみなされてきたこれら三つの表現は「痕跡」という観点を導入する時、きわめて近似した意識を反映していることが理解されよう。穴を穿たれた表面、自動車のタイヤの轍、放尿の跡。これらはいずれも出来事の結果であって、何にも似ていない。

しかもこれらの表現は戦後美術において決して特異



嶋本昭三 作品 1954年

な表現ではない。この展覧会にはおよそ60人の作家、120点の作品が陳列されている。出品された作品はアメリカにおいては抽象表現主義、ネオ・ダダ、ポップ・アートからランド・アートそしてコンセプチュアル・アート、日本においては具体美術協会から読売アンデパンダン展周辺の作家たち、さらにもの派とそれに連なる作家たちと多岐にわたり、同時に戦後美術の主流を占める集団や運動に関わっている。この点は「痕跡としての美術」がいわゆる「戦後美術」の隠された系譜であることを暗示している。

もっともこの展覧会を楽しむうえであまり難しい理屈を考える必要はないだろう。この展覧会ではこのようなテーマ展でしかありえない作品同士の対話を楽しむことができる。例えば57年にジョルジュ・マチウが大阪心斎橋で公開制作した大作「豊臣秀吉」は最初の公開とあってよいが、この作品の正面に展示されるのは篠原有司男がマチウの公開制作を見て案出したという巨大な「ボクシング・ペインティング」であり、両者は西洋と東洋のアクション・ペインティングの真髄を伝えている。あるいはイヴ・クラインのボディ・プリントの横には青と白、ネガとポジを反転したがごときラウシェンバーグのブループリントによる肖像を陳列してみた。これまで無関係とみなされていた作品が横に配置されることによって対話を始め、新しい発見がもたらされる。会場に足を運び、あなた自身の目で現代美術の新しい魅力を見つけていただきたい。

(京都国立近代美術館主任研究官 尾崎信一郎)

美

心

短

信

栗田口風景

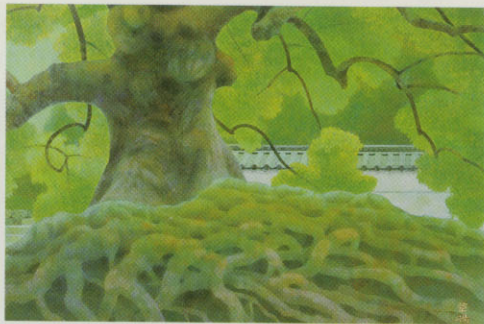
一般に栗田口と呼ばれているところは、現在、ウエスティン都ホテルの建つ丘陵から西側一帯を指している。白川の小さな流れが、三条通を北から南へ横切つて、知恩院の西門のほitoriへ流れてゆく。その東側までの漠然とした区域である。しかしここは、栗田神社、青蓮院、知恩院と広大な神域、寺域が連なり、うっ蒼とした楠の大樹が覆う、独特の荘厳な雰囲気に包まれた場所でもある。その昔、栗田口には刑場があり、西鶴の『好色五人女』のお三茂兵衛も、不義密通の罪で、栗田口の露と消えたのだが、一方、京焼の祖と言われる瀬戸の陶工、三文字屋久右衛門が窯を築いたのも、この栗田口の地である。先号で紹介した蹴上までは、ほんの数町ほどの距離で、東国への出口であったところから、結構、人の往来は絶え間なかっただろうが、巷の猥雑さからはほど遠く、第一級のプロムナードと言うべき場所である。四季いつも美しいが、楠に若葉が芽吹く五月頃がすばらしい。今回紹介する二つの作品は、それぞれ油彩画、日本画、と分野こそ異なるが、期せずして、同じ新緑の頃を写生している。

安井曾太郎の「栗田口風景」は明治38年の作。安井が浅井忠の聖護院洋画研究所（のち関西美術院に改組）の塾生であった頃に画いたものである。聖護院の研究所と移転先の関西美術院は1キロ足らずの距離である。今日こそ、岡崎公園周辺の住宅地という、交通の便も良く、さまざまな文化施設にも近い快適なところだが、安井の通っていた当時は、未だ聖護院の森の名残りで暗く、夜などは灯火の少ない寂しい場所だった。それだけに、写生には困らなかつた。当時の塾生たちの画いた水彩画や素描からも、それをうかがうことができる。塾は栗田口までも、徒歩で10分足らずというところだろうか。

夏の旺んな繁りを見せる楠の大樹を、安井はその幹にちらちらと射す陽、細やかな葉や小枝の明暗、年古りた土坡や石垣に落ちる影などを、丁寧に描写してい



安井曾太郎 栗田口風景 1905年 京都市美術館蔵



山口華楊 青蓮院の老木 1987年
京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

る。道端の休憩処だろうか、赤に青の氷の旗も見える。若い安井が、師の浅井の教えを、誠実に学んでいったことが証されるような、若々しく且つ重厚な作品である。

一方、山口華楊の「青蓮院の老木」は、昭和48年、京都府が『京の四季』をテーマに、画家たちに依頼した作品の一つである。華楊はためらうことなく、画家の最も愛した場所の一つ、この青蓮院下のプロムナードを選んだという。みずみずしい新緑が風にそよぐ、初夏の景であろう。しかし、画家の視線は、その若葉だけではなく、たくましい根元に注がれている。まるで大蛇のように、緩い斜面にうねる巨大な根。楠は亜熱帯から温帯へかけての植物だろうが、その生命力は、まるでジャングルの樹のよう。成長も早い。

近代の日本画家として、類型的な花鳥表現を脱皮しようとした、華楊たち大正時代に育った画家たちは、それぞれに新しい表現の手がかりを模索したが、その中で、華楊は自然にはぐくまれて生きる者たちへの、限らない愛の思いを表わそうとした。仔馬や仔牛の誕生、虎や豹たちのしなやかな生命力、野の花々の昆虫に与えるいのちの蜜等々を、明快なフォルムと明るい色で書きつづけた。

中でも、樹木はいのちそのものの表現として、華楊の心を捉えたのであろう。いくつもの作品が画かれている。

(R. K.)

友の会会員募集について

きばって見るのではなく、今日は河井寛次郎のやきものを観てこよう、長谷川潔の銅版画を久しぶりに観たい、帰りには1階の喫茶室でひと休みして、ミュージアム・ショップに寄って、というような気分になられたら、会員証を見せればいつでも、何度でもご入場いただける友の会をご利用くださると便利です。あるいは、特別会員や法人会員になって、美術館を少しサポートしてやろうという方も大歓迎です。いつでもご入会いただけます。友の会の会員には、次のような種類と特典があります。

□一般会員

年会費
特典

- 一般5000円／学生3000円
- ・常設展示が随時観賞できます。
 - ・京都国立近代美術館の企画展、特別展を観賞できます。(1回)
 - ・国立美術館(国立国際美術館・国立西洋美術館・東京国立近代美術館)の常設展示が随時観賞できます。また、国立国際美術館に限り、企画展を観賞できます。(1回)
 - ・京都／奈良国立博物館の常設展が団体料金で観賞できます。
 - ・ミュージアム・ショップの商品が割引購入できます。(一部除外商品もあります)
 - ・喫茶室(カフェ・ドウ505)利用に優待があります。
 - ・友の会会報、講演会、見学会等のご案内を送付します。

□特別会員・法人会員

年会費
特典

- 特別会員 20,000円／法人会員 1口100,000円
- 一般会員の特典の外、次の特典があります。
- ・常設展示の観覧券年間20枚(特別会員)／年間100枚(法人会員)
 - ・企画展の招待券を企画展ごとに2枚(特別会員)／10枚(法人会員)
 - ・特別招待状(展覧会のプレ・ビュー)を展覧会ごとに1通(図録引き換え券1枚進呈)(特別会員)／3通(図録引き換え券3枚進呈)(法人会員)※但し、図録引き換えは展覧会会期中のみ可。
 - ・法人会員には、図録を1冊送呈いたします。
 - ・京都／奈良国立博物館の常設展、企画展を団体料金で観賞できます。
 - ・美術館ニュース、友の会会報、ポスター・ちらし(ご希望の場合)を送付いたします。講演会、見学会のご案内を送付いたします。
 - ・その他、ミュージアム・ショップ、喫茶室等のご利用については、一般会員と同様です。

□募集期間

年間を通して、いつでも入会できます。

□申込方法

新規入会ご希望の方は、ハガキにご住所、ご氏名、電話番号またはEメール、FAX、生年月日、性別、学校名、勤務先、法人の場合は口数をお書きください、ご希望の会員の種類をお選びの上、事務局宛お送りください。会費は下記の郵便口座または銀行口座にお振り込みください。なお、美術館1階受付で入会手続きをすることもできます。

□事務局

京都市左京区岡崎円勝寺町 京都国立近代美術館友の会

電話:(075)761-4111/ファックス:(075)752-0509

□振込先

郵便振替口座:00940-7-189550/口座名:京都国立近代美術館友の会

銀行口座:みずほ銀行百万遍支店(普通)2338632/口座名:上と同じ

- 開館時間
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 - 夜間開館
概ね4月から10月までの企画展開催中の金曜日
午前9時30分～午後8時まで(入館は午後7時30分まで)
 - 休館日
毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は、翌日が休館)、及び年末年始
(開館時間、休館日は臨時に変更する場合があります)
- ※お車でお越しの場合 岡崎公園駐車場(地下)をご利用の友の会会員様は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。

● 交通案内



独立行政法人国立美術館

京都国立近代美術館

The National Museum of Modern Art, Kyoto

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
TEL. 075-761-4111

テレフォンサービス 075-761-9900
ホームページ <http://www.momak.go.jp>